

令和5年度 高等教育研究コンソーシアム信州 学生活動支援事業活動報告書

団体等名	アサマデ	
代表学生	所属大学名・学部・学年	信州大学医学部医学科3年
	ふりがな氏名	中林知紗（なかばやし ちさ）
教職員責任者	所属大学名・職名・ふりがな氏名	信州大学キャリア教育・サポートセンター 講師 勝亦達夫（かつまた たつお）

活動名	まつぶら	
実施時期	6/29, 10/29, 1/19	
実施場所	松本市内各所	
活動内容	<p>松本市内各所を案内人とともに歩いた。6月には、信州大学4年生の学生を案内人として、うらまち地区を歩いた。10月には、中林が案内人を務め、或いは参加者自身も案内人として、浅間温泉を紹介しあつた。1月は、「こたつでまつぶら」と名付けて、室内で地図を広げ、この一年で見つけた松本の街を語った。案内人には3人の社会人をおよびした。いずれの回にも学年、国籍の多様な松本市内の大学生が参加した。回を重ねるごとに工夫が重ねられた。10月の回では、街歩きだけではなく、異文化交流の要素を取り込み、茶道や和服の体験、各国の文化について話す機会を創出することができた。また、特に最後の回では、松本のディープな部分と今年一年で自分が出会い、インパクトを与えられたものを重ね合わせて、お互いの考え方や価値観について対話する場になった。</p>	
活動の成果と今後の課題	<p>活動の成果としては、参加者の、「ここ来たことがなかった」という声がきけたことだ。松本のまちなでる機会を創出できたことがひとつの成果である。アンケートからは、「松本を楽しんでいる人が沢山いる!」「松本アツい!」といった声が聴けた。また、「学校に、あるいは街の中に、こんなにも色々な人がいて、それだけ色々な世界がある、ということに改めて感じました。」という感想ももらえて、目的としていたことを達成できたのではないかと感じる。一方で、「それぞれが考えていることについて、もっと話したかった」「もっと色々な人と話したかった」などという声も聞かれたので、その機会を設けたり工夫したりしたいと思った。企画側としては、仲間を選ぶことが大事だということも学んだ。全体で2,3人がちょうどよく、自分を含め動機や自分へのメリットをはじめに明確にすることが大事だと感じた。回を重ねるにつけ、仕事の振り分けもうまくなり、特に最後の回はよいチームワークだったと感じる。</p>	
	     	

※記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。

※活動内容が分かる資料や写真等があれば、添付してください。添付書類を含む活動報告書一式は、A4判4枚以内にまとめてください。活動内容だけでなく、活動団体のPRを行うことができる動画を添付することも可能です。

※提出された活動報告書一式は、各関係機関等に公表するとともに、高等教育コンソーシアム信州のHPへの掲載を予定しています。他人が写った写真等を許可なく使用しないなど、著作権や肖像権に配慮してください。

※申請内容から変更があった場合は、経緯を記入してください。

※本様式のほか、活動内容や成果についての報告動画を併せて作成して提出してください。